

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300106	事業の開始年月日	平成23年6月1日
		指定年月日	平成23年6月1日
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 小田原前川		
所在地	(256-0813)		
	神奈川県小田原市前川154-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月2日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方に安心して生活していただける場所であり続けると共に、グループホーム（地域密着型）として、自治会や小学校など地域交流に取り組んでおり、ご入居者様に地域の一員として役割（生きがい）を感じていただける様取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年12月1日	評価機関 評価決定日	平成29年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR東海道線、鴨宮駅から徒歩18分ほどの巡礼街道沿い、総合食品卸売場市場の目の前にあります。近隣には大型ショッピングセンターや外食店が立ち並び、買い物や外食などに大変便利です。事業所敷地内の玄関前には広い駐車場が整備され、家族や来訪者の利便に供しています。

<優れている点>

地域交流を深めています。地域行事には利用者と積極的に参加しており、来年の夏祭りには事業所の広い駐車場を自治会に開放する予定です。プロの人を含め、料理や絵画教室、バンド演奏、ネコカフェほか多くのボランティアが来訪し利用者の生活に楽しみや潤いを与えています。毎年、地域の小学校に利用者手縫いの雑巾を100枚以上寄付し、学校の朝礼で引き渡し式を行っています。また、地域に認知症やグループホームへの理解を深めてもらうため、自治会にホーム制作のカラー刷りの新聞「小田原前川通信」を届けています。管理者は職員と何でも話し合える関係を築き、意見や提案を事業所の運営に生かしています。風通しの良い、チームワークが取れた明るい職場の中で職員は、利用者の持てる能力を生かし、一人ひとりに寄り添った支援を実践しています。

<工夫点>

全体会議やユニット会議の開催時には、事前に「議案シート」を配付し、欠席者も含め全員が議案に基づいた自分なりの意見を必ず出させるようにし、会議の効率化を図り、職員の意見や提案には素早く対応するようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	愛の家グループホーム 小田原前川
ユニット名	うるし（1階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	出勤時、朝礼開始時に「運営理念」を唱和して、理念の共有、そして実践ができるよう努めています。	これまで法人の運営理念を基に利用者本位の支援に当たってきましたが、現在、事業所独自の理念を新たに構築すべく、地域密着型サービスとしての基本的な考え方を踏まえて全職員で意見を出し合い作成中です。	新たに作成する事業所独自の理念を職員間で共有すると共に、利用者や家族、地域とも共有し、これまで以上に利用者に寄り添った支援につながることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の小学校にご入居者様が縫われた雑巾を贈呈（年1回）しています。地域の防災訓練やお祭りに、ご利用者様もご参加いただき交流を深めております。	各種地域行事に利用者と積極的に参加しています。来年の夏祭りには事業所の広い駐車場を自治会に開放する予定です。プロを含めた多くのボランティアや小学校とも交流しています。事業所発行の「小田原前川通信」で利用者の生活ぶりを地域に伝えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会にホーム制作の新聞を届けており、認知症の方への理解、グループホームへの理解を深めていただける様努力しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、ご家族様から色々なご意見を頂けており、ホーム運営に生かしております。またホームの日常を見ていただける様、レクや作業を会議の日に組み込んだりもしております。	運営推進会議を定期的開催しています。会議では、事業所の運営状況、活動実績、事故・ヒヤリハット、活動の評価と共に、利用者の外出、食事、レクリエーションなどの場面を写真で紹介するカラー刷りの資料を配布し、質疑応答、意見交換を行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	小田原市主催の地域連携会議や、研修に参加しており、協力体制が築ける様取り組んでおります。	要介護認定の更新の申請時には市に向き相談、助言を得たり、困難事例の相談をするなど、協力関係を築いています。市主催の研修会にも参加しています。また、社会福祉協議会とも日常的に交流があり関係が取れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「虐待・不適切なケア、身体拘束防止の取り組み」を本社主導で行っており、2ヶ月に1回はホーム内で勉強会を開催。「禁止対象となる具体的な行為」を正しく理解し行わないように指導しています。	車イスにはずっと座らせず、イスに座ってもらう、「スピーチロック」や「ドラックロック」は行わない、などの支援を実践しています。管理者は、職員がストレスをためないよう声掛けすると共に、気分転換を図るための施策を講じています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者（ホーム長）も勉強会に参加。またホーム長が時々業務に入る事で、事業所内で虐待の芽が無いかに注意をはらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月の全体会議で「勉強会」を開催しており、「権利擁護」は年間スケジュールに組み入れられています。職員全員が理解を深くできる様努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間をタップリと取り、不安や疑問点を解消したうえで、契約となるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営会議や、年1回のご家族様アンケートを実施し、ご意見を反映できるように努めています。	家族から出た「入浴、食事などの分かりやすい報告がない」に対し、毎月発行の「愛の家小田原前川便り」のレイアウトを変更し、新たに入浴、食事の報告を加えると共に、家族の訪問時には担当職員から直接伝えるようにし、要望に応じています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の個人面接、年1回のスタッフ向けアンケートを実施し 職員の意見・提案を運営に反映できるよう努めています。 また、毎月の全体会議やユニット会議は、意見・提案をしやすい場となるよう努めています。	管理者は、普段から職員の意見を聞き、会議や個人面接で職員の意見や提案を話し合い、運営に反映させています。毎年実施する職員アンケートは無記名で実施し、本部に提出し伝えています。会議では議案を事前に配り欠席者も含め議案に対する個々の意見を必ず提出させるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人、事業所は職員の働きやすい環境を整備し、離職の少ない職場となるよう努めております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム内で正看護師による勉強会や、薬剤師による勉強会を定期的開催。 また、外部研修の案内を事業所内に掲示し、勉強の機会を確保しております。また、法人全体として「事例発表会」を開催しており、研鑽に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同地域のグループホーム連絡会を通じて交流の機会を設けています。 また法人内の他ホームへ見学会も開催しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前アセスメントに実際ケアにあたるユニット職員が同席する事で、信頼関係がスムーズに築ける様努めています。また入居後もご本人様・ご家族様への傾聴を続け、関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前アセスメントに実際ケアにあたる、ユニット職員が同席する事でご家族様との関係づくりにも努めています。入居1か月は、密にご様子を連絡し ご家族様に安心していただける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前アセスメントに実際ケアにあたる、ユニット職員が同席し「状況把握」「要望」を確認する事で 入居後求められているサービスがスムーズに提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は出勤時に ご入居者様全員に挨拶を行っています。「出来る事」をご自分で行って頂き「ありがとうございます」とお伝えする事で、関係を築くと共に「やりがい」も感じていただける様努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にご入居者様の状況をお伝えし、「どのように支援が望ましいか」一緒に考えると共に、協力して支援にあたっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容院に通ったり、知った場所を散歩したりすることで、関係継続に努めています。	馴染みの人の来訪時は湯茶でもてなし、気兼ねなくリビングや居室で過ごしてもらい、再訪を切願しています。本人の希望や趣向を把握し、買い物、有名菓子舗、外食、コーヒー店、地元の小田原市内巡りや季節に応じた外出などを支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がお一人ずつの個性・人間関係をしっかりと把握し、共同生活の中でトラブルなく気持ちよい関係が築かれるよう支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族様からご連絡を頂く事が多々あります。新しい生活の場へ面会に伺ったりする事で、関係を断ち切らないよう努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人ひとりの意向を把握し、できるだけ希望に沿う事ができる様努力しています。プラン作成者は「こんな生活を送りたい」との希望に沿ったケアプラン作りに努めています。	日常の会話や普段の様子から本人の希望や意向を感じ取り、家族からも情報を得て意向や思いを把握するよう努めています。希望や意向などは申し送りノートや個人記録に記し、ユニット会議で共有し実施すると共に、ケアプランに落とし込む場合もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様とのかかわりの中で得た情報を記録や申し送り・会議の場で共有し、職員全員が把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話や、歩行訓練の状況などを、毎日の記録や申し送りで共有し、職員全員がその方の現状を把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のサービス担当者会議（ユニット会議内）で計画作成者のもとに意見やアイデアを集め、より良いプランを作れるよう努力しています。必要に応じて主治医、訪問看護師、薬剤師など関係者に意見を伺い反映させています。	ケアプランは3ヶ月ごとに見直し、その後の実施状況や利用者の変化など、必要に応じて見直しています。変更に当たっては、ケアマネジャーがモニタリング、居室担当者がアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催しています。本人、家族、必要に応じて医師、看護師等の意見を入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の申し送りで情報共有を行っています。介護記録、日誌、ノートを使用しケアの実践に反映できるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様と関わりの時間を多く持ち、ご希望・必要に応じて他の施設（特養など）をご案内する等 当ホームで提供できるサービスだけでなく柔軟な支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域ボランティアや、地元企業に協力いただきレクリエーションや外出など、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診だけでなく、必要に応じて精神科往診も受けられる体制が整えられております。	全員が月2回の内科往診を受けていて、毎日の体温と血圧の記録を往診時に医師が確認しています。毎月の健康状態を家族に報告しています。歯科往診は毎週あり、義歯の調整など希望者が受診しています。その他の専門科は家族が通院に付き添いをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週木曜日に看護師の訪問があります。介護職員から日々の状況と往診内容（ファイル）を伝える事で適切な看護が受けられるよう努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引かないよう、体調不良の早期発見に努めています。また、入院時にはサマリーを作成し病院関係者にその方の情報をしっかりお伝えしております。病院相談員との関係づくりにも努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から「重度化した場合や終末期のありかた」として想定されるケースをご家族様と話し合い、方針を共有しております。必要な場合は地域資源のご紹介も行っております。	入居時に、重度化した場合や終末期における対応を説明し、文書で了承を得ています。病院や他の福祉施設へ移ることも視野に入れて、状態の変化があった時や介護計画の見直し時に本人の意向と最善の方法を主治医、看護師、家族、職員で話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応は職員全員がしっかりと理解できております。また個別のケースに関しては電話近くにノートを用意し直ぐに確認できるように整えてあります。また、定期的に救急救命訓練もホームで開催しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施しております。地域の方々にもホームの訓練にご参加いただける様ご案内しております。また、ご家族様には運営推進会議時に「災害対策」に関して報告し、小田原市ハザードマップなどの資料もお渡ししております。	避難訓練は、夜間想定と昼間想定で年2回、消防署と地域の方の協力を得て実施しています。小学校で行われる地域の避難訓練にも参加しています。自主訓練は新しく職員が入る都度行い、消火器、通報機、AEDの位置を確認し合っています。備蓄品は3日分準備しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「言葉かけや対応について」朝礼や会議時に「常に心に留めたいで毎日の介護にあたるよう」職員に伝えており実践しております。	日ごろから、本人の意向を優先した支援を行うように心掛けています。表情や行動を注意深く観察して、本人の気持ちを最優先にした支援をしています。言葉かけや対応について、毎日の業務の中で職員間で確認し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者が「自己決定」できるようなお声掛けの仕方（決めつけない）を全員で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方の気持ち・ペースを大切にしています。業務優先ではなく「今日はTVを見ながらゆっくり食べたい」や「今日はお風呂に入りたくない」など「気持ち・気分」をできるだけ優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日のお洋服をご自分で選んで頂いたり、女性入居者様にはお化粧品・マニキュアのお手伝いなどの支援を行っております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日 簡単なお料理（おかず1品程度）やお菓子作り、盛り付けを手伝っていただいております。月に1～2回は全ての料理を ご入居者様と一緒に作る「料理レクの日」も設けております。食後の片づけも できるだけお手伝いいただいております。	回想法や、料理本を見ながら利用者の食べたいものを聞き、献立に反映しています。月に1回以上は希望に応じて外食をし、食欲を喚起しています。おやつは手作りしたり、果物の日があります。月に1回「おいしい食事委員会」があり利用者、調理員、職員で食に関する話を話合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し、1日を通じて必要量を摂取できるよう努めております。嚥下困難な方にはトロミやポカリゼリーを提供し、水分量が進むよう支援も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後 洗口液も利用し口腔内の清潔保持に努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターン把握に努めております。 尿意のある方、座位が保てる方には、できるかぎりトイレでの排泄を支援しています。	トイレでの排泄が自然排便を促すと考え、日中は全員トイレで排泄をしています。おむつやパットの使用について、一人ひとりに合ったものを常に検討、見直しをしています。トイレ内に温かい清拭布がいつでも使えるように置いてあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝食で自家製ヨーグルトの提供 オリゴ糖、オリーブオイル等 便秘解消のため、お薬以外にお食事でも対応しています。また、運動不足にならないよう「ペダルこぎ運動機」や散歩・歩行訓練を日課に取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を勧めるお声掛けに気を付け、ご本人様のタイミングに合わせています。入浴剤や季節感のある入浴（ゆず湯や菖蒲湯など）タイムをご提供しております。	基本は週2回の決まった曜日の入浴としていますが、本人の希望により毎日入れます。湯は毎回入れ替えし、3種類ある入浴剤の中から好みのものを選ぶことができます。体調や希望を大切にし、朝1番に入浴する人や夕食後の人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中 体操やレクリエーション、家事をお手伝いいただく等 なるべく活動していただく事で、夜は質の良い睡眠がとれるよう援助しています。 夕食後は リビングソファで皆さんでTVを見たり 眠くなるまで自由に過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師の方に勉強会を開催してもらうなど、知識を増やす機会を設けています。服薬時は職員2名で「チェック表」を用い、氏名・日付・錠数の確認を行い 安全に配慮しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人ひとりの生活歴や現在のADLを考慮したうえで、お掃除や食器洗い、料理等の家事をお手伝いいただき生きがいを持っていただける様支援しています。また、体験型レクリエーション（蕎麦打ち等）やコンサート等様々な気分転換も行っております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩や、近隣ショッピングモールへの買い物は日々行っています。 仲の良いご入居者様数人と、コーヒーを飲みにいったり、昼食食べに行ったりも 行っています。	事業所がショッピングセンターや外食店舗の立ち並ぶ街道沿いにあり、車イス使用の利用者も積極的に外出を楽しんでいます。付き添いボランティアの協力を得て、イチゴ狩り、花見、もみじ狩りなど、季節を感じてもらおう外出を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その方の方に応じて、お買い物時に、お財布からお支払いをして頂くなどの支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部の方は携帯電話の所持もされております。また玄関前にポストを設置しており、お手紙をご自分で投函できるようにしてあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居様がレクリエーションで作られた作品をリビング壁に掲示し、季節を感じられるようにしています。また、快適な空間となるよう、温度・湿度の管理に気を付けております。	廊下に、利用者が作成した玉ねぎの皮の布地染めの作品が飾ってあります。リビングは1面が大きな窓になっていて明るく、温かみの感じられる手作りの季節の飾り付けをしています。利用者が書いたレクリエーションの予告ポスターや詩、貼り絵、手芸作品などを飾り、自己表現できる場としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブル席以外にソファ席を用意し、個別に過ごせる空間を作っております。また、リビングから離れた廊下にもソファを設置し、お一人になれる空間も設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居前に使用されていた家具や馴染の品々を居室にお持ちいただき心地よくお過ごしいただける様配慮しています。	クローゼットとエアコンと照明が備え付けです。カーテンを始め、タンスや書斎机など入居前に使っていた物を置くことによってその人らしい居心地の良い居室づくりになっています。レクリエーションで作った自分の作品を飾り温かい雰囲気を出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な場所に手すりの設置を行ったり、戸感われている時にはさりげなくお声掛けする等、ご自分で出来る事をできるかぎりしていただける環境を整えています。		

事業所名	愛の家グループホーム 小田原前川
ユニット名	わだち（2階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	出勤時、朝礼開始時に「運営理念」を唱和して、理念の共有、そして実践ができるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の小学校にご入居様が縫われた雑巾を贈呈（年1回）しています。地域の防災訓練やお祭りに、ご利用者様もご参加いただき交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会にホーム制作の新聞を届けており、認知症の方への理解、グループホームへの理解を深めていただける様努力しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、ご家族様から色々なご意見を頂けており、ホーム運営に生かしております。またホームの日常を見ていただける様、レクや作業を会議の日に組み込んだりもしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	小田原市主催の地域連携会議や、研修に参加しており、協力体制が築ける様取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「虐待・不適切なケア、身体拘束防止の取り組み」を本社主導で行っており、2ヶ月に1回はホーム内で勉強会を開催。「禁止対象となる具体的な行為」を正しく理解し行わないように指導しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者（ホーム長）も勉強会に参加。またホーム長が時々業務に入る事で、事業所内で虐待の芽が無いか注意をはらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月の全体会議で「勉強会」を開催しており、「権利擁護」は年間スケジュールに組み入れられています。職員全員が理解を深くできる様努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間をタップリと取り、不安や疑問点を解消したうえで、契約となるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営会議や、年1回のご家族様アンケートを実施し、ご意見を反映できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の個人面接、年1回のスタッフ向けアンケートを実施し 職員の意見・提案を運営に反映できるよう努めています。 また、毎月の全体会議やユニット会議は、意見・提案をしやすい場となるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人、事業所は職員の働きやすい環境を整備し、離職の少ない職場となるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム内で正看護師による勉強会や、薬剤師による勉強会を定期的で開催。 また、外部研修の案内を事業所内に掲示し、勉強の機会を確保しております。また、法人全体として「事例発表会」を開催しており、研鑽に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同地域のグループホーム連絡会を通じて交流の機会を設けています。 また法人内の他ホームへ見学会も開催しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前アセスメントに実際ケアにあたるユニット職員が同席する事で、信頼関係がスムーズに築ける様努めています。また入居後もご本人様・ご家族様への傾聴を続け、関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前アセスメントに実際ケアにあたる、ユニット職員が同席する事でご家族様との関係づくりにも努めています。入居1か月は、密にご様子を連絡し ご家族様に安心していただける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前アセスメントに実際ケアにあたる、ユニット職員が同席し「状況把握」「要望」を確認する事で 入居後求められているサービスがスムーズに提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は出勤時に ご入居者様全員に挨拶を行っています。「出来る事」をご自分で行って頂き「ありがとうございます」とお伝えする事で、関係を築くと共に「やりがい」も感じていただける様努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にご入居者様の状況をお伝えし、「どのように支援が望ましいか」一緒に考えると共に、協力して支援にあたっただけです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容院に通ったり、知った場所を散歩したりすることで、関係継続に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がお一人ずつの個性・人間関係をしっかりと把握し、共同生活の中でトラブルなく気持ちよい関係が築かれるよう支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後もご家族様からご連絡を頂く事が多々あります。新しい生活の場へ面会に伺ったりする事で、関係を断ち切らないよう努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人ひとりの意向を把握し、できるだけ希望に沿う事ができる様努力しています。プラン作成者は「こんな生活を送りたい」との希望に沿ったケアプラン作りに努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様とのかかわりの中で得た情報を記録や申し送り・会議の場で共有し、職員全員が把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話や、歩行訓練の状況などを、毎日の記録や申し送りで共有し、職員全員がその方の現状を把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のサービス担当者会議（ユニット会議内）で計画作成者のもとに意見やアイデアを集め、より良いプランを作れるよう努力しています。 必要に応じて主治医、訪問看護師、薬剤師など関係者に意見を伺い反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の申し送りで情報共有を行っています。介護記録、日誌、ノートを使用しケアの実践に反映できるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様と関わりの時間を多く持ち、ご希望・必要に応じて他の施設（特養など）をご案内する等 当ホームで提供できるサービスだけでなく柔軟な支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域ボランティアや、地元企業に協力いただきレクリエーションや外出など、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診だけでなく、必要に応じて精神科往診も受けられる体制が整えられております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週木曜日に看護師の訪問があります。介護職員から日々の状況と往診内容（ファイル）を伝える事で適切な看護が受けられるよう努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引かないよう、体調不良の早期発見に努めています。また、入院時にはサマリーを作成し病院関係者にその方の情報をしっかりお伝えしております。病院相談員との関係づくりにも努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から「重度化した場合や終末期のありかた」として想定されるケースをご家族様と話し合い、方針を共有しております。必要な場合は地域資源のご紹介も行っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応は職員全員がしっかりと理解できております。また個別のケースに関しては電話近くにノートを用意し直ぐに確認できるように整えてあります。また、定期的に救急救命訓練もホームで開催しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施しております。地域の方々にもホームの訓練にご参加いただける様ご案内もしております。また、ご家族様には運営推進会議時に「災害対策」に関して報告し、小田原市ハザードマップなどの資料もお渡ししております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「言葉かけや対応について」朝礼や会議時に「常に心に留めたうえで毎日の介護にあたるよう」職員に伝えており実践しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様が「自己決定」できるようなお声掛けの仕方（決めつけない）を全員で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方の気持ち・ペースを大切にしています。 業務優先ではなく「今日はTVを見ながらゆっくり食べたい」や「今日はお風呂に入りたくない」など「気持ち・気分」をできるだけ優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日のお洋服をご自分で選んで頂いたり、女性入居者様にはお化粧品・マニキュアのお手伝いなどの支援を行っております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日 簡単なお料理（おかず1品程度）やお菓子作り、盛り付けを手伝っていただいております。月に1～2回は全ての料理を ご入居者様と一緒に作る「料理レクの日」も設けております。食後の片づけも できるだけお手伝いいただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し、1日を通じて必要量を摂取できるよう努めております。嚥下困難な方にはトロミやポカリゼリーを提供し、水分量が進むよう支援も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後 洗口液も利用し口腔内の清潔保持に努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターン把握に努めております。 尿意のある方、座位が保てる方には、できるかぎりトイレでの排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝食で自家製ヨーグルトの提供 オリゴ糖、オリーブオイル等 便秘解消のため、お薬以外にお食事でも対応しています。また、運動不足にならないよう「ペダルこぎ運動機」や散歩・歩行訓練を日課に取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を勧めるお声掛けに気を付け、ご本人様のタイミングに合わせています。入浴剤や季節感のある入浴（ゆず湯や菖蒲湯など）タイムをご提供しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中 体操やレクリエーション、家事をお手伝いいただく等 なるべく活動していただく事で、夜は質の良い睡眠がとれるよう援助しています。夕食後は リビングソファで皆さんでTVを見たり 眠くなるまで自由に過ごして頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師の方に勉強会を開催してもらうなど、知識を増やす機会を設けています。服薬時は職員2名で「チェック表」を用い、氏名・日付・錠数の確認を行い 安全に配慮しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人ひとりの生活歴や現在のADLを考慮したうえで、お掃除や食器洗い、料理等の家事をお手伝いいただき生きがいを持っていただける様支援しています。また、体験型レクリエーション（蕎麦打ち等）やコンサート等 様々な気分転換も行っております。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お散歩や、近隣ショッピングモールへの買い物は日々行っています。仲の良いご入居者様数人と、コーヒーを飲みに行ったり、昼食食べに行ったりも 行っています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その方の力に応じて、お買い物時にお財布からお支払いをして頂くなどの支援をしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部の方は携帯電話の所持もされております。また玄関前にポストを設置しており、お手紙をご自分で投函できるようにしてあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者がレクリエーションで作られた作品をリビング壁に掲示し、季節を感じられるようにしています。また、快適な空間となるよう、温度・湿度の管理に気を付けております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブル席以外にソファ席を用意し、個別に過ごせる空間を作っております。また、リビングから離れた廊下にもソファを設置し お一人になれる空間も設置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居前に使用されていた家具や馴染みの品々を 居室にお持ちいただき心地よくお過ごしいただける様配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な場所に手すりの設置を行ったり、戸惑われている時にはさりげなくお声掛けする等、ご自分で出来る事のできるかぎりしていただける環境を整えています。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 愛の家 グループホーム 小田原前川

作成日： 平成29年3月2日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	64	地域の行事（どんと焼き）等に参加がご入居者様が地域の一員として少しずつ増えてきていますが、まだまだ 交流が深いと言えない状況です。	地域の方々との交流を深め、ご入居者様が地域の一員として社会参加できるように支援していく 又 地域の中でホームの認知度を高めていく	ホームの駐車場を利用し、地域の夏祭りを開催していただく。 ホーム庭で野菜作りをはじめ、機会があれば、作物を地域の方にお配りする	12ヶ月
2	65	運営推進会議の参加者が、ご家族様と地域包括センターの方だけとなっており、民生委員さんや自治会長さん等 地域の方がご参加いただけていない。	運営推進会議に民生委員や自治会長等 地域の皆様にもご参加いただき地域内でグループホームの認識を進め、地域の相談所として役立てるようになっていく	5月の運営推進会議から、地域の方にもご参加いただけるようご案内をさせていただきます。 また、ホームの新聞「前川通信」をもっとホームの事が伝わるように改良し、地域にお配りする	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月